



上青木中だより

凡事徹底

～当たり前のことが当たり前にできる生徒・学校・教職員～

子どもたちの安心・安全を願って。

校長 小野 毅

子どもの命にかかわる痛ましい事件が連日のように報道されています。

夜回り先生こと水谷修氏は『もうすぐ死に逝く私から いまを生きる君たちへ 夜回り先生いのちの講演』（鳳書院）で子どもたちへ以下のようなことを訴えています。

君たちにお願いがあります。君たちの中には、親からいつも責められている子がいるかもしれない。あるいは親が仕事を失ったり、病気になって苦しんでいる家庭の子がいるかもしれない。もし、君たちの学校が温かい、優しい学校だったら、その子たちがどれだけ救われるか。

お願いします。中学生でも、高校生でも、だれかが一人ぼっちでいる姿を見かけたら、「何かあったの?」「どうしたの?」って声をかける勇気と優しさを持ってください。

君たちのクラスが、学校全体が、街じゅうが、優しさで満ちあふれたら、どれだけの子どもたちが、どれだけの仲間たちが救われるか。

ぜひ、君たちのクラス・学校・地域を優しさで満たしてほしいのです。その優しさが、これからの君たち自身の人生の中で、必ず何十倍・何百倍にもなって、君たちの元に戻ってきます。

また、いま苦しんでいる子どもたちに伝えたい。君たちは人生経験が本当に浅い。だから考えることが極端です。

親から何か言われると、「親なんて」「大人なんて」って、すぐ心を閉ざす。先生から何か言われると、「先生なんて」「学校なんて」って背を向ける。友だちからちょっと何か言われると、「私は一人。死にたい」って孤立する。

でも、この日本に大人はいったい何人いますか?学校の先生は何人いますか?友だちは何人つくれますか?

お願いします。親や一人の大人から何を言われても心を閉ざすな。まわりにいる十人、二十人の大人たちに救いを求めなさい。救いは必ずくる。世の中、悪い人間はいるけれども、その何十倍・何百倍も優しい人がいるのです。

一人の先生に裏切られても、絶対に学校に背を向けてはいけない。校長先生でも、だれでもいい。泣いてもいい、叫んでもいい、暴れてもいい。一生懸命、訴えなさい。救いは必ずくる。たくさんのすばらしい教員が、君たちのまわりで待っています。

一人の友だちを失ったからって、孤立してはいけない。まわりに優しさを配って、十人、二十人と新しい友だちをつくるのです。

教師が学校を、子どもたちにとって、楽しく明日を夢見ることのできる場にしなければならなと感じます。ご家庭では、この世界で最も安全で心とからだを休められる幸せな場にしてほしいと思います。